

## 第1回教育コンテンツ作成WG議事録(確定)

日 時 : 令和5年7月21日(水) 13:00~15:00  
形 式 : Zoom会議  
場 所 : 日本薬学会長井記念館 薬学教育協議会事務局(ホスト会場)  
出席者 : 別記1  
配布資料 : 別記2

### 1. 委員等紹介について(資料1)

本間代表理事より教育コンテンツ作成ワーキンググループ開催に向けて挨拶が行われた。また、暫くの間、議事を進行することの発言があった。

続いて、資料1に基づき、参加者全員による自己紹介が行われた。

### 2. 委員長の選出について

委員長の選出について、令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム(以下、「改訂版コアカリ」という。)にもご尽力いただいた亀井 美和子先生の推薦があり、満場一致で了承された。

### 3. 文部科学省委託事業「薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂を踏まえた調査研究」の業務計画について(資料2)

本間代表理事より、資料2に基づき「薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂を踏まえた調査研究」の事業計画の説明があった。改訂版コアカリでは、薬剤師として求められる10の基本的な資質・能力のうち、特に「総合的に患者・生活者をみる姿勢」と「情報・科学技術を活かす能力」の二つが新たに設定された。本調査研究では、「総合的に患者・生活者をみる姿勢」を「B社会と薬学」の内容に拡げても良いと考えているが、その教育のための指導教員のFD用や学生教育用のコンテンツの作成を目的として、1年間であるが、研究開発を進めていく予定であるとの説明があった。

また、広報活動については薬学教育協議会が主体として実施するが、先生方にもご協力をいただくこととなることの補足説明がなされた。

### 4. 委託事業の背景・課題、他領域の検討体制について(資料3)

文部科学省より、委託事業の背景・課題、他領域の検討体制については、資料3に基づき、本事業は大学における医療人養成の在り方に関する調査研究であり、医学、歯学、薬学におけるモデル・コア・カリキュラム改訂を踏まえた調査研究がこの委託事業の内容であるとの説明があった。

なお、改訂版コアカリでは、10個ある薬剤師として求められる基本的な資質・能力のうち、2.総合的に患者・生活者をみる姿勢と6.情報・科学技術を活かす能力の二つが新たに加わったもので、特に総合的に患者・生活者をみる姿勢については、改訂版コアカリの26ページに、患者・生活者の身体的、心理的、社会的背景などを把握し、全人的、総合的に捉えて、質の高い医療・福祉・公衆衛生を実現すると説明が加えられている。新しい学修目標も多数設定されていること、B社会と薬学の改訂作業の方針についての紹介もなされた。

なお、参考であるが、医学と歯学の事業体制及び開発の状況についての紹介もなされた。

終わりに、今回の教育コンテンツ作成WGでは特に総合的に患者・生活者をみる姿勢と新しい学修目標についてご検討いただきたいとのことであった。

## 5. 教育コンテンツ作成方針について

亀井委員長より、今回、令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラムは、今までのコアカリのA基本事項とB薬学と社会が統合され、B社会と薬学となった旨の説明があり、「教育コンテンツ作成WG」は、まずは教育従事者を対象としたコンテンツの作成とするが、学生教育にも資する内容で進める方針であると確認が行われた。

また、必要に応じてe-learningコンテンツの作成も想定されとの確認が行われた。

続いて、各委員より総合的に患者・生活者をみる姿勢について、イメージしている内容について意見の提示がなされた。

### 主な意見

- ・現在、患者・生活者をみる姿勢に関する教員向けの教材はない状況。
- ・教材を通じて、総合的にみる姿勢の大切さに気付かせることが必要ではないか。
- ・学生は、小児や妊婦さんの対応を知らない現状ではないか。
- ・薬局では、いろいろな人達に関わっているLifeステージを追っかけるような教育ができないだろうか(誕生→小児→学校→社会→疾病(服薬)→結婚→孫→老い→独居→認知orがん等→死)。
- ・目の前にいる患者さんと対応する薬剤師の関係はいかがか。
- ・婦人科の医師が薬剤師に伝えたい事柄(若い女性や病気を持った子供のステージ等)も必要なのではないか。
- ・看取りとの関わり方もいかがか。
- ・様々な年齢層(幼児、成人、高齢者)の者と関わりを持つ薬剤師の視点について必要ではないか。
- ・「総合的に患者・生活者をみる姿勢」の視点、ヒューマンティー教育として、Bをベースにし、Gをエビデンスとし、C、D、Eの知識を活用した内容はいかがか。
- ・まさに生活者であり、医者を受診する前に対峙する者との関係も大切ではないか。
- ・薬のルーツとなる薬草について実習体験させることから薬物乱用防止へ至るような学習はどうか。大学は座学でロールプレイ止まりとなっている。地域の中で体験学習を実践できないだろうか。

以上の意見を踏まえ、亀井委員長より発言があった。

有田先生が作成中であるスライドを利用させていただき、概念的な部分を最初に提示すると理解しやすいのではないか。

コンテンツの内容としては、PBL をイメージできる教材が必要である。薬→薬連携や、多職種との連携も必要な教材と考える。人の生→死（Life ステージ）等、新しいイメージとして教材に盛り込んで勉強できる内容がよろしいのではないか。学生に気付かせる教育（伝わる教材）としたい。コロナ禍で培った情報伝達力の項目。また、災害時における薬剤師のあり方と役割等。

## 6. その他

### ①作成したコンテンツについて

作成したコンテンツは、2024年1月末に公開する予定であることが確認された。

### ②構成員等の増員について

コンテンツ作成にあたり構成員が足りない場合は、協力者の増員を検討することとなった。

### ③コンテンツの数について

多くの意見提示をいただいたが、次年度以降も本WGが継続する可能性もあることから、コンテンツが増えることは問題ないことが確認された。

### ④今後のWG開催について

年度内で月1回の定時開催とすることとなった。開催日時について、調整をすることとなった。

### ⑤教材のイメージについて

次回開催までに各委員が教材のイメージを作成することが確認された。

別記1 教育コンテンツ作成ワーキンググループ第1回（7月21日開催）

構成員氏名	所 属	出欠席	備 考 欄
亀 井 美和子	帝京平成大学薬学部	Web	
有 田 悦 子	北里大学薬学部医療心理学部門	Web	
亀 井 大 輔	昭和大学薬学部薬学教育講座	Web	
川 名 三知代	ココカラファイン薬局砧店	Web	
岸 本 桂 子	昭和大学薬学部社会健康薬学講座	Web	
篠 原 久仁子	恵比寿ファーマシー	Web	
本 間 浩	一般社団法人薬学教育協議会	Web	
オブザーバー	文部科学省高等教育局医学教育課		

別記 2 教育コンテンツ作成ワーキンググループ第 1 回 (7 月 21 日開催)

<配付資料及び参考資料>

資料 1 教育コンテンツ作成 WG 委員名簿

資料 2 令和 5 年度文部科学省委託事業「薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂を踏まえた  
調査研究」業務計画書 (抜粋)

資料 3 文部科学省資料「委託事業の背景・課題、他領域の検討体制について」